

東建パブリニュース

平成29年2月16日

経営管理本部 広報IR室

《このニュースは、当社に関連する記事が掲載された新聞・雑誌等の情報を逐次、速報するものです。》

掲載

平成29年1月30日 日刊産業新聞 P. 5

●当社に関する記事の掲載がありましたので、以下の通りご報告いたします。

東建コーポ

鉄骨地中梁 基礎工法

主力製品を拡販

高品質・短工期など評価

【名古屋】東建コーポレーションは、独自開発した『鉄骨地中梁基礎工法』(特許出願中)の高耐震鉄骨造アパートへの採用を進め、製品の拡販につなげている。建築技術に係る任意評価を取得し、従来の鉄筋コンクリート基礎に比べ、高品質で工期が短縮されコスト削減にもつながるメリットが施主の高評価につながっている。

鉄骨地中梁基礎工法は、鋼管杭の上にH形鋼を使用した鉄骨梁を設置し、コンクリートで被覆する工法。従来工法に比べ鉄筋・型枠工事が不要になり、工期が基礎工事工程で10日強、全体工期では13%程度、短縮が可能。なお、約15%のコスト低減にもつながる。また、工場製作した鉄骨梁を地中梁に使用することで、高い品質も確保できる、といったメリットがある。

従来工法よりも鉄骨を設置する土間コンのレベル精度を上げる必要があるため、レベル精度の確保が容易な金物を考案(特許出願中)。鋼管杭は、施工時の残土が発生しないオリジナルの鋼管杭「ニューベースパイプV」を採用している。

東建では、2015年中に開発した新工法を、2016年から主力の高耐震鉄骨造アパートである「シェルシリーズ」(Rocco o Modern, ShellulurTPⅢ、ShellulurUnivaly E)への採用を進め、品質、工期、コスト面での優位性をアピールすることで、製品の拡販につなげている。

従来工法では、現場で鉄筋を組み立てることから、職人の技量によって出来る品質に差が生じるほか、近年では熟練の鉄筋工や型枠工の不足により、工事工程が遅れが生じている。これに対し東建が開発した新工法は、工場生産された鉄骨梁をコンクリートで被覆するため、出来上がり品質が安定し工程の遅れも発生し難い。

今後はさらに現場省力化が可能な新工法の開発を進め、高耐震鉄骨造シェルシリーズの工場生産率を上げることで、高品質な建物を提供していく方針だ。



鉄骨地中梁工法CG図

関連子会社で高耐震鉄骨造アパートの構造部材を製作するナストラックが、新工法の鉄骨梁部材や鋼管杭も自社工場で作成。シェルシリーズの構造体部分の一貫した品質管理、納期管理を行っている。

高品質な建物